

「たまくす」の絵本ができました！ 横浜商科大学との連携の成果物を頒布します

横浜開港資料館では、学生による文化観光の情報発信に関するプロジェクトを実施するため、横浜商科大学との間で令和7年6月2日に覚書を締結しました。
このたびプロジェクトの成果として、横浜開港のシンボルツリー「たまくすの木」を紹介する絵本が完成しましたのでお知らせいたします。

絵本「たまくす」の概要



【サイズ】 210×210 A4 変形
【ページ】 16 ページ
【仕様】 フルカラー 非売品
【部数】 3,000 部

左：絵本表紙
下：本文見本



【絵本の頒布について】

4月1日(水)以降、横浜開港資料館ミュージアムショップ&カフェ PORTER'S LODGEにて、ご希望の方や「たまくすの木」に関連する商品等を購入いただいた方に差し上げます。また、今後横浜市中区内の幼稚園や保育園等への贈呈、イベント参加者への配布などを予定しています。

【絵本の印刷について】

この絵本の印刷について株式会社ありあけのご支援と協力をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

横濱ハーバー

「絵本」のお披露目イベントを開催します

名称：横濱ハーバーpresents
スペシャルイベント「たまくすの木の下で」
日時：2026年3月28日(土)
17:00～18:00(開場16:30)
会場：横浜開港資料館 中庭「たまくすデッキ」
(雨天時は講堂に変更します)
スペシャルゲスト：FMヨコハマ Lovely Day♡
DJ 近藤さや香さん 街角リポーター藤田優一さん
ゲスト：横浜商科大学 若林宏保教授・研究室のみなさん
定員：100名(チケット制の参加者限定イベントです。チケットは先着順、枚数限定となります)
特別プログラム：横浜商科大学の学生による「たまくす」絵本発表会

次ページあります

横浜商科大学商学部商学科との情報発信に関するプロジェクト

横浜開港資料館（横浜市中区 館長：西川武臣 管理運営：公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団）は横浜商科大学 商学部商学科 若林宏保教授が担当するゼミ生 15 名とともに新たな情報発信に関するプロジェクトを令和 7 年 6 月 2 日より始動。

当プロジェクトは、文化観光拠点計画の一環として、開港の地ならではの伝統的な横浜の魅力を若者の視点で再発見し、創造的なアイデアでその価値を「ブランドプロデューサー」として発信してもらうことで、来館・来街促進につなげることを目指して活動してきました。



若林ゼミのみなさん（横浜開港のシンボルツリー「たまくすの木」の前で）

文化庁認定「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」

「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」は、文化の振興を、観光の振興と地域の活性化につなげ、これによる経済効果が文化の振興に再投資される好循環を創出することを目的として、令和 2 年に施行されたいわゆる「文化観光推進法」※に基づき、文化についての理解を深める機会の拡大と国内外からの観光客の来訪を促進させ、文化・観光の振興、地域の活性化の好循環を全国各地で創出するため、文化庁が認定している計画です。

横浜開港資料館は「横浜開港」の歴史を中心に文化振興を観光と地域活性化に結び付ける拠点となることを、共同申請者である山下公園通り・元町・横浜中華街の各団体とともに目指しています。

※「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」

※文化観光推進法に基づき認定した拠点計画及び地域計画

文化庁ウェブサイト：https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/bunkakanko/92441401.html



横浜開港資料館 施設概要

【名称】 横浜開港資料館

【所在】 横浜市中区日本大通 3

【概要】 横浜開港資料館は、横浜開港百年を記念して実施された「横浜市史」編纂事業の資料を基礎に、昭和 56 年（1981）6 月 2 日の開港記念日に開館しました。この地は安政元年（1854）の日米和親条約締結の地であり、また、旧館は旧イギリス総領事館（横浜市指定文化財）です。

【所蔵資料】 幕末から昭和初期までの、横浜に関する歴史資料約 27 万点を収蔵し、近代横浜の政治・経済・文化など幅広い分野の資料、古文書・海外資料・新聞・雑誌・図書・写真など様々取り揃えています。

【管理運営】 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団



近代建築としても人気の高い旧館（旧英国総領事館）と中庭に植わる横浜開港のシンボル玉楠の木

お問合せ先

横浜開港資料館 TEL 045-201-2100

副館長：青木祐介 担当 拠点計画推進課課長：羽毛田智幸 広報担当：加藤七海